

教科	国語		科目	現代文 B	単位数	2
学年	2年		類型	地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編現代文 B (東京書籍)					
副教材(出版社)	新編現代文 B 学習課題ノート (東京書籍)					
授業の概要	教材の読解を通して、基礎的な理解力や要旨を把握する力を養う。また、グループ学習などを通して多様な思考に触れ、主体的な考察を行うとともに、自身の思考を表現したり発表したりする。					
授業の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。様々なジャンルの文章を的確に理解する能力を養成し、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、豊かな感受性を養う。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	1 随想 ・さくらさくらさくら 2 詩歌 ・I was born 3 評論 1 ・生命とは何か 4 詩歌 ・信濃路	<ul style="list-style-type: none"> 桜の花に対する日本人独自の感性と筆者の思いを理解する。 散文詩を読み、蜻蛉のイメージに託された生命への思いを深く味わう。 論の展開に注意して筆者の考えを読み取り、生命の特徴や不思議について理解する。 短歌の修辞技巧を理解し、それぞれの短歌に詠まれた情景や作者の思いを読み取る。 			
	2 学期	1 小説 1 ・みどりのゆび 2 評論 2 ・思考の肺活量 3 働くよろこび ・分からないからおもしろい	<ul style="list-style-type: none"> 小説における表現の工夫を理解し、場面展開を的確に読み取る。 人物関係や、主人公の心情を読み取り、自分の感想を文章にまとめる。 論理の展開を正確に読み取らせ、思考のあるべき姿について理解する。 抽象的な概念を表す語句を理解する。 筆者の体験をもとにした、労働に対する考え方を読み取る。 「働くこと」についての自分の考えをまとめる。 			
	3 学期	1 小説 3 ・こころ	<ul style="list-style-type: none"> 日本近代文学の代表的な作品を読み、現代に通じる問題意識を読み取ることで、作品主題の普遍性を理解する。 			
観点別 評価	関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語を理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重して、その向上を図ろうとしているか。	目的や場に応じて効果的に話したり、的確に聞き取ったりして、自分の考えをまとめ、発展させているか。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させているか。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させているか。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。	
備考	5つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	国語	科目	古典 B	単位数	3
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	高等学校標準古典 B 改訂版(第一学習社)				
副教材(出版社)	高等学校 標準古典 B 学習課題集 改訂版(第一学習社)				
授業の概要	1 講義形式だけでなく、ペアワークやグループワークなども取り入れながら、基礎知識の定着と読解の深化を図る。 2 古文単語や文法などの小テストを適宜行う。				
授業の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広げ、古典についての理解や関心を深めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 説話 古今著聞集 ・小式部内侍が大江山の歌のこと 2 故事・寓話 ・画竜点睛 朝三暮四 3 物語(一) 竹取物語 ・かぐや姫の昇天 4 古代の史話 ・褒姒大笑 5 随筆(一) 徒然草 ・相模守時頼の母は	・話の展開を理解し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・漢文訓読上のきまりを正しく理解し、繰り返し音読する。 ・故事成語の由来を正しく理解する。 ・敬語表現を理解し、作り物語の原点について考える。 ・作り物語の世界に触れ、想像しながら読み味わう。 ・古代中国の為政者の理想像について考える。 ・話題となる人物に対する作者の評価がどのようなものか読み取る。		
	2 学期	1 随筆(二) 枕草子 ・すさまじきもの ・中納言参り給ひて 2 項羽と劉邦 ・剣の舞 ・樊噲、頭髮上指す 3 日記 更級日記 ・門出 源氏の五十余巻 4 項羽と劉邦 ・四面楚歌 時利あらず 項王の最期 5 諸家の思想 ・論語 孟子 韓非子	・類集的章段や日記的章段に触れ、清少納言独自のものの感じ方、考え方について考察する。 ・敬語の用法に注意し、登場人物の関係を正確につかむ。 ・長文読解の力を身に付け、登場人物の心理を的確に読み取る。 ・語句の意味を正しくとらえて口語訳し、文脈を理解する。 ・作者の心理と行動を読み取る。 ・登場人物の動きと心理を的確に読み取る。 ・歴史を動かす力は何であるかを考える。 ・儒家、法家の思想に触れ、その概要を理解する。		
		1 不思議な世界 ・新死鬼 2 物語(二) 平家物語 ・能登殿の最期 3 和歌 ・万葉集 ・古今和歌集 新古今和歌集 4 日本の詩	・訓読によって話のあらすじを把握できるようにする。 ・作品に描かれた人生観を考える。 ・軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・音読によって独特のリズムをとらえる。 ・それぞれの歌集の独自のリズムや表現の美しさを味わい、特徴を理解する。 ・日本文学としての漢詩を読み味わう。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を身に付け、作品について自ら考察するとともに、我が国の文化の特質や中国の文化との関係について理解を深めようとしているか。			古典を読んで、内容及び思想や感情を、構成や展開に即して捉え、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにしようとしているか。	古典の理解に役立てるため、語句の意味、用法、文の構造、文法、音声、表記等を理解し、知識を身に付けているか。
備考	3つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	地理歴史		科目	日本史B	単位数	2
学年	2年		類型	商業科		
教科書(出版社)	詳説日本史 改訂版(山川出版社)					
副教材(出版社)	プロムナード日本史(浜島書店)					
授業の概要	教科書に沿って日本史の全体像を理解する。通史的に日本の歩みを学習する中で、歴史的背景や展開、歴史的意義を探究する。					
授業の目標	わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養い、国民としての自覚と国際社会に生きる日本人としての資質を養う。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	1 日本文化のあけぼの (1)文化のはじまり (2)農耕社会の成立 (3)古墳とヤマト政権 2 律令国家の形成 (1)飛鳥の朝廷 (2)律令国家の成立		以下の項目に関して、文化的特質を理解する。 ・旧石器文化、縄文文化、弥生文化など、原始時代の人々の生活や文化を理解する。 ・古代天皇制の確立と古代前半の政治情勢、律令制度を理解する。		
	2 学期	(3)平城京の時代 (4)天平文化 (5)平安王朝の形成 3 貴族政治と国風文化 (1)摂関政治 (2)国風文化 (3)地方政治の展開と武士 4 中世社会の成立 (1)院政と平氏の台頭 (2)鎌倉幕府の成立 (3)武士の社会 (4)蒙古襲来と幕府の衰退 (5)鎌倉文化		以下の項目に関して、古代貴族社会から中世武士社会への推移を理解する。 ・律令制度の確立と政界の対立を理解する。 ・摂関政治による貴族社会の熟成と凋落、荘園制の仕組みについて理解する。 ・鎌倉幕府の成立過程と公武二重支配の構造について理解する。 ・元寇についてその歴史的意義を考える。		
	3 学期	5 武家社会の成長 (1)室町幕府の成立 (2)幕府の衰退と庶民の台頭 (3)室町文化 (4)戦国大名の登場 6 幕藩体制の確立 (1)織豊政権 (2)桃山文化 (3)幕藩体制の成立 (4)幕藩社会の構造		以下の項目に関して、中世から近世武士社会、幕藩体制の確立を学習する。 ・室町幕府の成立過程について理解する。 ・応仁の乱が与えた影響と戦国時代という実力社会が到来した過程を考察する。 ・織田信長と豊臣秀吉の統一事業、徳川家康の江戸幕府成立について理解する。		
観点 別 評価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		資料活用の技能	知識・理解
	日本の歴史の概観への関心と課題意識を深め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きるようとする資質を養う。		日本の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代社会の特質を多面的・多角的に考察するとともに、公正に判断する。		日本の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通し、歴史的な事象を追究する方法を身に付ける。	日本の歴史についての基本的な事柄を、世界の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
備考	定期考査(年5回)、課題・提出物、授業態度などを総合的に判断する。					

教科	地理歴史		科目	地理 B	単位数	2
学年	2 年		類型	商業科		
教科書 (出版社)	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)					
副教材 (出版社)	パワーアップ整理と演習(帝国書院) 最新地理図表GEO (第一学習社) 地理ワークブック (愛媛県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会 地理部門)					
授業の概要	教科書と副教材をもとに授業を理解する。重要な地名は地図帳で確認し、空間的な認識を深める。またワークブックでの作業を通じて、地理的スキルを磨くとともに、図表を活用し視覚的にイメージがわくよう理解する。					
授業の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
年間 学習 計画	学習内容 (単元・項目)			学習目標		
	1 学期	1 地理情報と地図 (1) 現代世界の地図 (2) 地図の種類とその利用 (3) 地理情報の地図化 2 地図の活用と地域調査 3 自然環境 (1) 世界の地形		・地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに、地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的スキルを身に付けさせる。 ・直接的に調査できる地域を地図を活用して、多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的スキルを身に付けさせる。		
	2 学期	(2) 世界の気候 (3) 日本の自然の特徴と人々の生活 (4) 環境問題 4 資源と産業 (1) 産業の発達と変化		・世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 ・世界の資源・エネルギーや農業などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。		
	3 学期	(2) 世界の農林水産業 (3) 食料問題 (4) 世界のエネルギー・鉱産資源 (5) 資源・エネルギー問題 (6) 世界の工業		・世界の資源・エネルギーやなどに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。		
観点別 評価	関心・意欲・態度		思考・判断・表現		資料活用の技能	
	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。		現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察し、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その課程や結果を適切に表現している。		地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りたり図表などにまとめたりしている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	改訂版 高等学校 現代社会 (数研出版)				
副教材(出版社)	新版 テーマ別資料 クローズアップ現代社会 (第一学習社)				
授業の概要	教科書に沿って、本文の内容を理解する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会への認識を深める。				
授業の目標	広い視野から現代社会の基本的な問題について理解を深め、人間としての在り方生き方について主体的かつ公正に判断、考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画		学習内容(単元・項目)	学習目標		
	1 学期	第1編 私たちの生きる社会 第1章 地球環境問題 第2章 資源・エネルギー問題 第3章 生命をめぐる問題 第2編 現代社会と人間としての在り方生き方 第1章 青年期と自己の形成	現代社会の諸課題を通して、社会の在り方を考察する基礎を理解し、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚する。 倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	2 学期	第2章 現代の民主政治と政治参加の意義 (1)民主政治の基本原則 (2)日本国憲法と基本的人権 (3)日本の政治機構 (4)政治参加と民主政治の課題 第3章 現代の経済社会と経済活動のあり方 (1)経済のしくみと市場機構	倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会などといった多様な角度から現代社会を理解し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
	3 学期	(2)財政と金融 (3)日本経済の発展と変化 (4)豊かな生活と福祉の実現 第4章 国際社会の動向と日本の役割 第3編 ともに生きる社会をめざして	持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を主体的に探究し、現代社会に対する理解を深め、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察する。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	社会や人間に関わる問題を意欲的に追究し、平和で民主的な社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深めようとしている。	社会や人間に関わる課題を見だし、広い視野に立って多角的に考察し、社会の変化や立場、考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	社会や人間に関わる問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有効な情報を適切に選択して、効果的に活用する学び方を身に付けている。	現代社会の異本的な問題と人間としての在り方生き方に関わる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	数 学	科目	数 学 A	単位数	2
学年	2 年	類 型	商業科		
教科書(出版社)	改訂版 最新 数学 A (数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版 3 ROUND 数学 A (数研出版)				
授業の概要	場合の数と確率では、条件つき確率まで学習する。整数の性質ではユークリッドの互除法を使い、応用問題にも対応できるように学習する。図形の性質は平面の性質から空間の性質を考えられるように学習する。				
授業の目標	数学では自ら考え、かつ実際に計算や推論をしないと数学の考え方が身につかない。例題から練習問題を通して、応用問題にも、強いられてするのではなく、数学のもっている面白さにつられて自然に挑戦する態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学 習 目 標		
	1 学 期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 確率	<ul style="list-style-type: none"> ・樹形図などを利用した個数の数え方について学び、また、和の法則、積の法則が成り立つのはどのような場合なのかを理解し、各場合に適切な応用ができるようにする。独立試行の典型的な例であり、最も重要な例でもある反復試行の確率を理解する。このとき、組合せを用いることを理解する。 		
	2 学 期	第2節 確率 3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用 第2章 図形の性質 第1節 平面図形	<ul style="list-style-type: none"> ・具体例を通して、条件付き確率と乗法定理の考え方を理解する。 ・整数の性質を利用し、倍数の判定の仕方を学び、その方法を習得する。素因数分解を利用した最大公約数、最小公倍数の求め方を理解する。ユークリッドの互除法によって2つの数の最大公約数を求め、不定方程式の1つの整数解を求められるようにする。2進法で表された数を10進法に直し、また、その逆をできるようにする。 ・線分の内分・外分を理解する。三角形の内角の二等分線と比の定理を理解する。三角形の重心、外心、内心の関係を理解する。 		
	3 学 期	第1節 平面図形 第2節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> ・チェバの定理、メネラウスの定理を理解し、それを活用できるようになる。 ・円の接線と弦のつくる角の定理を理解する。方べきの定理を理解する。2つの円の関係を理解し、その共通接線に関する問題に活用できるようになる。平行接線の作図やその応用ができるようになる。 ・空間における直線や平面の位置関係について理解する。多面体の性質を理解する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解	
	関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるか。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるか。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決できるか。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けているか。	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2
学年	2年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	改訂版 新編 生物基礎 (数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版 スタディアップノート 生物基礎 (数研出版)				
授業の概要	教室での学習活動や、実験・実習作業による探究活動を通して、事物・現象について科学的な考察力や知識を習得する。				
授業の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解を深め、科学的な見方や考え方を養いながら、科学に対する興味・関心を高める。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序章—生命の探究— 第1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝子とそのはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 生物基礎で学習する内容の概要を把握し、探究活動とは何かについて理解する。 生物の共通性と多様性について学習し、細胞の構造や呼吸、光合成について理解を深める。 遺伝子の本体であるDNAの構造や遺伝情報について理解を深める。 生命現象におけるタンパク質合成のしくみについて学習する。 		
	2 学期	第2編 生物の体内環境の維持 第3章 生物の体内環境とその維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 植生の多様性と分布	<ul style="list-style-type: none"> 多細胞動物の体液は、細胞にとっての環境(体内環境)であることを理解する。また体内環境がほぼ一定に保たれているしくみについて理解を深めながら、循環系・腎臓と肝臓の構造とはたらきや自律神経系と内分泌系、免疫のしくみについて学習する。 植生について、その構造や遷移について学習する。 		
	3 学期	第5章 生態系とその保全	<ul style="list-style-type: none"> 地球上のバイオームの分布や、バイオームの種類と気温・年降水量の関係について理解する。 生態系における物質循環とエネルギーの流れについて学習する。また、地球レベルの環境問題を取り上げながら、自然環境の保全が大切であることを理解する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。 生物の多様性と共通性を理解し、適切に表現することができる。	実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行うことができる。 実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	学習内容について理解を深め、適確に考察することができる。 観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価する。また、学年末の評価は各学期の評価を平均し、総合的に評価する。				

教科	保健体育		科目	体育	単位数	2
学年	2年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)					
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)					
授業の概要	各運動の特性を踏まえ、運動の学び方及び体力の高め方の一般原則運動と心身の働きの関係、運動に伴う事故の防止、運動とかかわりのある健康・安全に関する知識などの科学的な理解に基づいて運動を実践します。					
授業の目標	<p>1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。</p> <p>2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、体育実技において安全と運動効率の向上を目的とし、服装の徹底と自己管理を行う資質を育成します。</p>					
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学 期	<p>1 体づくり運動</p> <p>(1) 体ほぐしの運動</p> <p>ア 集団行動(基本動作)</p> <p>イ ストレッチング</p> <p>(2) 体力を高める運動</p> <p>ア 時間走</p> <p>イ 持久走(新体力テスト)</p> <p>2 球技選択Ⅰ</p> <p>(1) バドミントン</p> <p>(2) テニス</p> <p>(3) 卓球</p> <p>3 体育理論Ⅰ</p>		<ul style="list-style-type: none"> 基本的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。 主運動を行う前の、正確な体操及びストレッチを学びます。 自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。 集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 運動・スポーツの文化的特徴について学びます。 		
	2 学 期	<p>4 球技選択Ⅱ</p> <p>(1) ソフトボール</p> <p>(2) バレーボール</p> <p>(3) バスケットボール</p> <p>(4) ハンドボール</p> <p>5 体育理論Ⅱ</p>		<ul style="list-style-type: none"> 集団的技能や個人技能の程度に応じてゲームができるようになります。 各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わいます。 運動・スポーツの文化的特徴について学びます。 		
	3 学 期	<p>6 陸上競技(長距離走)</p> <p>時間走・記録測定</p> <p>(男子 3000m・女子 1500m)</p> <p>7 体育理論Ⅲ</p>		<ul style="list-style-type: none"> 一定の長い距離を走る中で、自分に合ったペースコントロールが分かり、自己記録を更新できるよう挑戦します。 運動・スポーツの文化的特徴について学びます。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能	
	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。 公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。 		<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。 課題解決を目指し、工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> 運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。 	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。					

教科	保健体育		科目	保健		単位数	1		
学年	2年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科					
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)								
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)								
授業の概要	思春期から中高年期までの健康に関わる事柄について学ぶとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみや、それらの活用の仕方について学びます。また、健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係などを中心に授業を展開します。								
授業の目標	<p>1 個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できるような意欲を育てます。</p> <p>2 心身の健康や安全に関する問題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付けます。</p>								
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標					
	1 学期	<p>2 生涯を通じる健康</p> <p>(1) 思春期と健康</p> <p>(2) 性意識と性行動の選択</p> <p>(3) 結婚生活と健康</p> <p>(4) 妊娠・出産と健康</p> <p>(5) 家族生活と人工妊娠中絶</p> <p>(6) 加齢と健康</p> <p>(7) 高齢者のための社会的取組</p>			<p>・私たちの心と体は、年齢とともに変化していき、また、健康のために私たちや社会がすべきことも、それにともなって変化することを理解します。</p> <p>・生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があることを理解します。</p>				
	2 学期	<p>(8) 保健制度とその活用</p> <p>(9) 医療制度とその活用</p> <p>(10) 医薬品と健康</p> <p>(11) さまざまな保健活動や対策</p> <p>3 社会生活と健康</p> <p>(1) 大気汚染と健康</p> <p>(2) 水質汚濁・土壌汚染と健康</p> <p>(3) 健康被害の防止と環境対策</p> <p>(4) 環境衛生活動のしくみと働き</p>			<p>・生涯を通じて健康の保持増進をするには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが重要であることを理解します。</p> <p>・人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあることや、それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることを理解します。</p>				
	3 学期	<p>(5) 食品衛生活動のしくみと働き</p> <p>(6) 食品と環境の保健と私たち</p> <p>(7) 働くことと健康</p> <p>(8) 労働災害と健康</p> <p>(9) 健康的な職業生活</p>			<p>・食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていることを理解します。</p> <p>・労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をする必要があることを理解します。</p>				
観点別 評価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能		知識・理解		
	・健康の保持増進について関心を持っているか。仲間と協力して資料を集め、意見交換をしている。		・自分のこれまでの学習や体験、資料などを基にしたり、他人の意見や考えを聞いたりして、課題の設定や解決の方法を考え、判断している。				・適切な生活行動を選択し実践すること必要であることを理解し、問題解決に役立つ知識を身に付けている。		
備考	3つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。								

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4	
学年	2年	類型	商業科			
教科書(出版社)	Revised BIG DIPPER English Communication II (数研出版)					
副教材(出版社)	Jet Reading Level 1 (数研出版)、英検分野別10分ドリル準2級(旺文社)、transfer Course C (桐原書店)、全商英語検定試験問題集1級(実教出版)					
授業の概要	1 予習として、単語やイディオムの意味を辞書で調べて内容の概要を把握しておく。 2 授業では、予習の段階で分からなかった箇所の説明を聞いてノートを取る。 3 ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。					
授業の目標	1 積極的に英語に触れ、コミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 2 聞いたり読んだりしたことや学んだことや経験したことに基づいて、情報や考えなどを理解したり伝えたりする力を養う。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標			
	1 学期	Lesson1 Washoku Around the World Lesson2 Chirori, the First Therapy Dog in Japan Lesson3 How Good Is Your Memory? Lesson4 Space Elevator 学習内容についての問題演習	・高校1年生で既習の文法事項を復習しながら、日本人としての自分や世界の中の日本について考える題材を通して必要な情報を的確につかみ、簡単な自己表現活動につなげる。 ・学習のポイントは、SVC、SVO、SVOOの各文型、受動態、関係詞の継続用法および制限用法、未来進行形、仮定法過去などである。			
	2 学期	Lesson5 Diversity Brings New Products Lesson6 Ueno Takahiro: The Dancer in Me Lesson7 The France Okaeshi Project Lesson8 What Is the True Meaning of Mottainai? 学習内容についての問題演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、芸術や心理などさまざまなテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。また、その情報をもとに適切な自己表現活動を行う。 ・学習のポイントは、SVOCの文型、仮定法過去完了、分詞構文、動名詞の意味上の主語、完了不定詞、助動詞 have+過去分詞、進行形の受動態、省略、形式目的語などである。			
	3 学期	Lesson9 Fair Play in Sports: What is "Fair"? Lesson10 Floating Education 学習内容についての問題演習	・新出の文法事項や表現を学習しながら、環境や教育など普遍的なテーマの題材を通して必要な情報を的確につかむ。 また、その情報をもとに意見を交換し合う。 ・学習のポイントは、同格を表す of と that、未来完了時制、無生物主語の構文などである。			
	観点別 評価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
		相手の話に関心を持ち、相手の意見を尊重しながら、積極的に言語活動に参加しコミュニケーションを図ろうとする。	読んだり聞いたりした題材をもとに、簡潔に英語で意見をまとめて書いたり、意見を発表したりすることができる。また、聞き手に伝わるように音読することができる。	聞いたり読んだりした英語の題材について概要や要点をとらえることができる。また、そのために必要な語句や表現、文法事項などの知識を活用することができる。	英語の音声的な特徴や英語を使用している人々の文化的背景について理理している。また、語句や表現、文法事項などの知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	外国語	科目	英語表現Ⅱ	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	NEW ONE WORLD Expressions II Revised Edition (教育出版)				
副教材(出版社)	英語構文ワーク 100 (桐原書店編集部)、 英文法・語法 Engage New Edition (いっずな書店) Hyper Listening Pre-Intermediate (桐原出版)				
授業の概要	1 予習として各レッスンの重要表現の意味を確認しておく。 2 授業では、積極的にペアワークやグループワークに参加し、話し方を工夫して、自分の考えや気持ちを相手に伝える。				
授業の目標	1 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	Lesson 1 Let Me Introduce Our New ALT Lesson 2 He Has Been Playing Tennis Lesson 3 Arriving in 15 Minutes Lesson 4 You had Better Talk to Her Now Review Practice Lesson 5 What Is Being Built in Front of the Station Lesson 6 Do You Mind My Using Your Dictionary?	<ul style="list-style-type: none"> ・現在形、過去形、現在進行形、過去進行形 ・現在完了形、過去完了形、現在完了進行形、過去完了進行形 ・未来表現 ・助動詞、助動詞+have+過去分詞 ・受動態 ・動詞の目的語になる動名詞と不定詞 		
	2 学期	Lesson 7 Let Me Take a Look at It Lesson 8 Carelessly, He Broke a Window Review Practice 2 Lesson 9 I Seldom Go Out on Weekends Lesson 10 This Book Shows You How to Make Good Choices Lesson 11 It is Amazing That Michael Can Solve Problems Lesson 12 No Other Student Can Play As Well As He Review Practice 3	<ul style="list-style-type: none"> ・使役動詞 ・副詞、副詞句、副詞節 ・準否定、部分否定 ・疑問詞+to 不定詞、疑問詞節 ・形式上の主語 it、形式上の目的語 it ・原級や比較級を用いて表す最上級、絶対比較級 		
	3 学期	Lesson 13 Having Never Been to Okinawa... Lesson 14 He Answered Whatever Questions I Asked Lesson 15 I wish I Had Had More Time Lesson 16 It Was on Our Mother's Birthday that... Review Practice 4	<ul style="list-style-type: none"> ・受身形/完了形の分詞構文、独立分詞構文 ・前置詞+関係代名詞、複合関係代名詞、関係代名詞/関係副詞の非制限用法 ・仮定法過去、仮定法過去完了、as if を用いた表現 ・強調構文、倒置構文、無生物主語構文 		
観点別 評価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
	積極的な態度で言語活動に参加し、相手とのコミュニケーションを図ろうと努力している。	英語で話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。情報や考えなどを英語で簡潔に書くことができる。聞き手に伝わるように英語で音読することができる。		単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。英語を使う上で必要な文化的背景について理解している。	
備考	3つの観点に基づき、各学期ごとに 100 点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭基礎	単位数	2
学年	2年	類型	地域ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材(出版社)	家庭科ノート、調理実習ノート (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	「人の一生と家族・家庭及び福祉」「生活の自立及び消費と環境」「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」で構成。内容は、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら展開する。				
授業の目標	人の一生と家族・家庭、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	○HP・家庭クラブについて 2 経済生活を営む (1) 国民経済・国際経済と家庭経済 (2) 消費行動と意思決定 1 自分らしい人生をつくる (1) 青年期の課題 (2) 家族・家庭をみつめる 3 住生活をつくる (1) 住生活の計画と選択 (2) これからの住生活 ○HPについて	・家庭科で何を学び、どのような学習活動をしていくのかを知る。 ・経済と家計との関係を理解する。 ・消費行動における自分の意思決定の重要さとそのプロセスを理解する。 ・キャッシュレス社会について考え、契約や消費者問題について、適切な判断ができるようにする。 自立することの大切さ、自己実現について考える。 ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見通す。 ・男女が相互に協力して家庭を築き、家族関係をつくる必要性を学ぶ。 住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・ライフステージに合った住居を考える。 ・ホームプロジェクトの計画		
	2 学期	○HPの発表 8 食生活をつくる (1) 食生活について考える (2) 食事と栄養・食品 (3) 食生活の安全と衛生 (4) 生涯の健康を見通した食事計画 (5) これからの食生活 (6) 調理の基礎 ○調理実習 ①～③ 4 高齢社会を生きる (1) 高齢期を理解する (2) これからの高齢社会 5 共に生き、共に支える (1) 私たちの生活と福祉と共生社会	・ホームプロジェクトで調べたことを各クラスで発表する。 ・日常の食生活を振り返る。 ・食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ・食事摂取量や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作ることができるようになる。 ・高齢社会の現状と課題・福祉制度と課題を理解する。 ・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ・共生社会の理念を理解し、ユニバーサルデザインを考える。 ・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。		
	3 学期	6 子どもと共に育つ (1) 子どもの育つ力を知る (2) 親として共に育つ (3) これからの保育環境 7 衣生活をつくる (1) 衣服の役割を考える (2) 衣服を入手し、管理する	・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ・遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ・児童福利の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。 ・被服の様々な役割を整理する。 ・被服材料の特徴を理解し、汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した選択や保管方法を知る。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などの充実向上を目指して、実践的な態度を身に付けようとしているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて見直し、思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活など、生活を充実向上するために必要な知識を身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	ビジネス経済応用	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	ビジネス経済応用(実教出版)				
副教材(出版社)	ビジネス経済応用 問題集(実教出版)				
授業の概要	需要や供給などのミクロ経済理論及び景気循環や経済政策などのマクロ経済理論の基礎的な内容を学習する。				
授業の目標	1 ビジネスに必要な経済に関する知識を習得し、経済社会の動向について理解する。 2 サービス経済社会に適切に対応する能力と態度を育てる。				
年間 学習 計画		学習内容(単元・項目)		学習目標	
	1 学期	第1章 サービス経済化とサービス産業 1 産業構造の変化と労働 2 サービス産業の現状 第2章 経済の国際化 1 企業の国際化・グローバル化 2 国際化の進展と国際収支 3 貿易の利益と課題 4 国際資本移動 5 外国為替		・わが国における産業構造の移りかわりや、サービス経済化の進展要因について、労働市場の変化、消費構造の変化を通して理解する。 ・対個人サービス産業や対事業所サービス産業の現状について、ビジネスの機会をとらえて成長した企業の具体的な事例を通して理解する。 ・企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解する。	
	2 学期	第3章 金融市場と資本市場 1 金融取引の発達 2 貯蓄と投資の動向 3 金融市場と資本市場の役割 4 金融市場と資本市場の課題 第4章 企業経営 1 企業経営の特色 2 企業経営と外部環境 3 企業の社会的責任 4 企業の海外進出と経営		・金融市場の概念とその意義について確認し、企業の営業活動と資金調達を通して短期金融市場の概要について理解する。 ・資本市場の概要について、債券市場と株式市場を中心に理解する。 ・日本の経営の特色について、基本的な知識や概念の理解を通して考える。 ・経営理念の重要性について考察する。 ・企業の社会的責任を、具体的事例を通して把握させ、その質的变化や環境問題への取り組み、社会貢献が求められている現状について考察する。	
	3 学期	第5章 ビジネスの創造と地域産業の振興 1 起業の手続き 2 新たなビジネスの展開 3 地域ビジネス事情		・起業の意義と経営理念の重要性、また、起業に対する支援制度について理解する。 ・事業目的や商号の決定、定款の認証と登記など、株式会社設立のための手続きの流れについて理解する。 ・わが国における新たなビジネスの現状について、具体的な事例を通して理解する。	
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	経済社会の動向について理解することを目指して、主体的に取り組もうとしているか。	経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深めているか。	経済社会の動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付けることができるか。	経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解しているか。	
備考	考查点：70% 平常点(授業態度、提出物、課題等)：30%				

教科	商業	科目	財務会計 I	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書 (出版社)	財務会計 I (東京法令出版)				
副教材 (出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集会計 (東京法令出版)				
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得する。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容 (単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	まとめどりによる原価計算を学習する (4月～9月)			
	2 学 期	第Ⅱ編 貸借対照表 第7章 貸借対照表の作成 第Ⅲ編 損益計算書 第3章 損益計算書の作成 第4章 その他の財務諸表	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学 期	第Ⅳ編 財務諸表活用の基礎 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表の見方 発展的な内容 第Ⅴ編 連結財務諸表 第1章 連結財務諸表	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。 「原価計算」とのまとめ取りにより、10月から3月に学習する。				

教科	商業	科目	原価計算	単位数	2
学年	2年	類型	商業科		
教科書(出版社)	原価計算 新訂版(東京法令出版)				
副教材(出版社)	完全段階式 標準検定簿記問題集 全商1級 原価計算(東京法令出版)				
授業の概要	製造業における工業簿記の記帳方法と原価計算の基本的な考え方、知識と技術を習得します。また原価計算によって得られる情報を効果的に活用するための能力と態度を身に付けます。				
授業の目標	原価計算に関する基本的・基礎的な知識と技術を身に付けるとともに、製造業において行われる取引・活動を計数的に把握し、活用する学習を通して、原価に対する理解を深めます。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	1 原価と原価計算 2 原価の費目別計算 3 原価の部門別計算と製品別計算 4 製品の完成・販売と決算	<ul style="list-style-type: none"> 原価計算の基本的な事項、製品の製造原価を計算するための第1手続きとしての費目別計算を学習する。 第2、第3手続きとしての部門別計算と製品別計算の記帳方法を学習する。 製造業の決算について、報告書の作成方法を学習する。 		
	2 学期	5 標準原価計算 6 原価情報の活用	<ul style="list-style-type: none"> 原価情報の活用に関する基礎的な知識と技術を習得する。 		
3 学期					
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	原価計算に関心を持ち、意欲的な取り組みと知識・技能の向上に努めているか。	各種の原価計算の方法や記帳法を使用する場面を自ら考え、判断できるか。	ビジネスの諸活動を計数的に把握し、的確に処理、表現できるか。	工業簿記と原価計算の仕組みを理解し、基本的な知識を身につけているか。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し、総合的に評価する。 「財務会計I」とのまとめ取りにより、4月から9月に学習する。				